令和５年度山形県公私立高等学校協議会の概要

１ 日 時
令和５年１１月２７日（月）　午後３時から午後４時３０分まで

２ 場 所
山形県自治会館　６０２会議室（一部委員はオンラインで参加）

３ 出席者　※敬称略
出席委員８名
玉手英利、須貝英彦、九里廣志、田宮邦彦、髙橋典子、花屋道子、渡辺伸子、遠藤愛

４ 報 告
（１）令和５年度公私立高等学校の入学状況について
○ 令和５年度公立高等学校の入学状況、私立高等学校の入学状況について説明（事務局）

５ 協 議
（１）公私立高等学校の収容定員について
○ 今年度の収容定員の状況について説明（事務局）
○ 県立高校再編整備基本計画等について説明（事務局）
○ 私立高等学校の収容定員の考え方等について発言（私学代表委員）

《意見の概要》

○　保護者の送迎の負担軽減や共同生活からの学びが期待されることから、県立高校でも寮を設置してはどうか。

○　公共交通機関は時間等の制約がある。バスでの送迎を手厚くしていることが、私立高校への進学しやすさに繋がっているのではないか。

○　県立学校で寮等を導入するかは、全体のコストや教育効果を検討して、本当に強みになるかどうか、深い議論が必要。

（２）教育におけるウェルビーイング向上のための取組みについて

《意見の概要》

○　県内出身の学生は、山形に貢献したいという想いを持っている。大学生はアルバイト先で、お客さんからありがとうと言われたことが大きな経験になっている。このように、自分が学んでいること・やりたいことが社会から受け入れられると、高い満足感や山形の未来に役立っているという自信に繋がるのではないか。

○　中学でも自己肯定感が持てない生徒が多い。高校では以前に比べて体験型の取り組みが増えており、このような経験は自己肯定感を持つために有効だ。また、不登校や特別な支援を要する生徒が増えており、高校進学が課題となっているが、そのような生徒に対し、それぞれの高校で特別支援や個別の支援が手厚く行われていることは大変心強い。

○　公立高校の専門学科の充足率が低いので、専門学科を卒業して社会で活躍している方々のロールモデルを見せて、将来のビジョンを描いてもらうなど、魅力を中学生や保護者に伝えていきたい。今後少子化が進み、専門学科がなくなるようなことになれ

ば、本県産業にとって大変な事態だ。

○　自己肯定感はとても大事であり、やりたいことに向かって進む前向きな気持ちを作ることは教育の中で非常に重要。その意識づけが、教育においてウェルビーイングという看板を掲げたときのゴールだと思っている。

　この人口減少の中で、本当に質の高い教育をやっていく・やっているということを生徒や保護者に伝え、山形で学ぶ体制をしっかりと作っていきたい。

以上